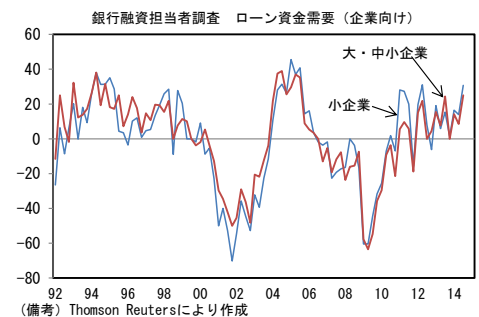
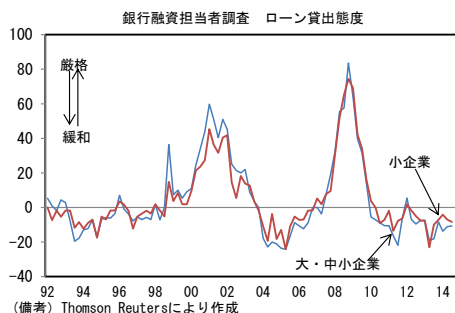
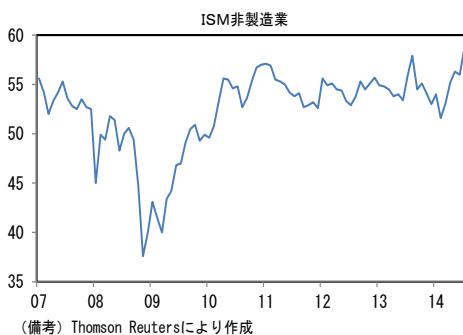


### 【海外株式市場・経済指標他】 ~ISM非製：強し~

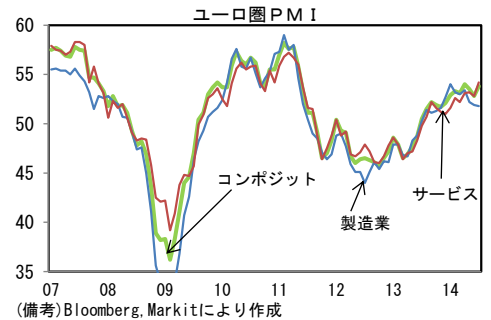
- ・ NYダウ平均株価は前日比▲139.81ドルの16429.47ドルで取引終了。5月20日以来の安値。
- ・ 7月ISM非製造業景況指数は58.7と前月(56.0)から改善、市場予想(56.5)を上回り2005年12月以来の高水準に到達。活動指数(57.5→62.4)、新規受注(61.2→64.9)の強さからは、寒波のペントアップデマンドをこなしてもなお米経済が拡大している様子が窺える。雇用指数も56.0と前月(54.4)から改善し、7月雇用統計の上方修正を示唆。雇用指数は2月の47.5をボトムに上昇、この間の民間サービス業NFPの増加や新規失業保険申請件数の著しい減少と概ね整合的だったが、足もとでは両者にやや乖離がみられていた。これは7月雇用統計が上方修正されることによって収斂しよう。同日発表の7月サービス業PMI(Markit)は60.8と前月(61.0)から僅かに軟化したものの、異例の高水準をキープ。総合PMIは60.6となり、発表元のMarkitは「GDPの4%成長と整合的」とした。銀行融資担当者調査(8/4発表)で確認された良好な金融環境(融資基準緩和・資金需要増)が業況改善の一助となっている模様。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

**【外国為替相場・債券市場】～ユーロ圏サービスPMI：製造業の鈍化を補う～**

- ・前日のG10通貨はGBPとUSDが堅調。好調なISM指数を受けてUSD高の展開となり、EUR/USD、AUD/USDはそれぞれ米雇用統計発表後の上昇を帳消しに。USD/JPYは欧米株下落が重石となり横ばい圏内での推移も下値は固い。6日日本時間でUSD/JPYは102.50近傍で一進一退。
- ・米10年金利は+0.3bpの2.484%。欧州債下落に追随するなか米指標を受けて一時2.52%を付けたが、ウクライナ情勢緊迫化報道を受けて、行って来い。欧州債は総じて軟調。GIIPS債の対独スプレッドは小幅拡大も株式市場は堅調。経済指標は7月ユーロ圏サービスPMIが54.2と速報から0.2pt上方修正され前月（52.8）から改善。国別ではドイツ(6月:54.6→7月:56.7)、フランス(6月:48.2→7月:50.4)、スペイン(6月:54.8→7月:56.2)が改善、イタリア(6月:53.9→7月:52.8)も高水準維持。結果、ユーロ圏総合PMIは53.8と前月から1pt改善。製造業のモメンタム鈍化をサービス業の加速が相殺。軟化基調にある他のサーベイ指標とは若干の不整合が生じているが、3Qの成長加速を示唆していることは事実。

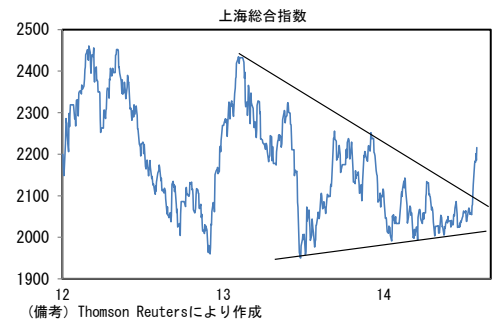
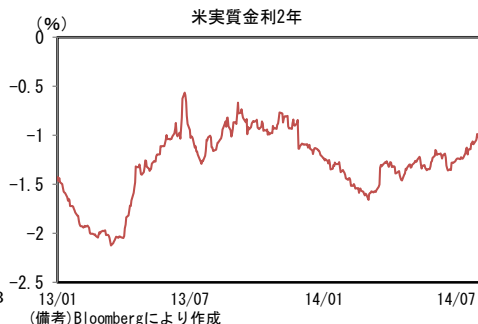
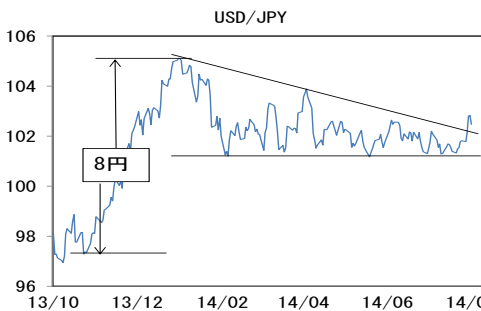


**【国内株式市場・経済指標他】～PMI：明るいシグナル～**

- ・日本株は米株下落を受けて安寄り後、もみ合い。アジア株はまちまち。
- ・昨日発表の日7月サービス業PMIは50.4と前月（49.0）から改善、4ヶ月ぶりに50を回復した。反発力に乏しい国内経済指標が相次ぐなか、当指標の50回復はポジティブ。発表元によれば、（製・非製の）複合生産高は増税後はじめて50を回復したとしている。年度2Qの内需回復シナリオをサポートする内容だ。

**【注目点】～USD/JPY 115は射程距離～**

・USD/JPYのレンジ相場が形成されて7ヶ月が経過。筆者はUSD/JPYの年末予想を115で据え置いているが、それは余りにも“USDに強気・JPYに弱気な予想”に感じられるかもしれない。年初まで110だったブルームバーグコンセンサス（14年4Q）は徐々に修正を強いられ、今や105と昨年末対比で横ばい水準まで低下した。今年も残り5ヶ月を切り“時間切れ”が意識した可能性があるが、昨年10月下旬から年末まで僅か2ヶ月強の間にUSD/JPYが8.3%（約8円）も上昇したことを忘れてならないだろう。当時は10月雇用統計のポジティブサプライズをきっかけに上昇を開始、その後もUSD/JPY、米金利上昇を支持する材料が断続的に提供され、その勢いは年末まで衰えることがなかった。これを足もとの水準で再現すると、2ヶ月強で111（ $102.50 \times 1.083 = 110.96$ ）となり、今もなお115が射程距離であることが確認できる。米金利上昇とUSD/JPY上昇が「今すぐではない」と考えている投資家も多いだろうが、現行ペースで米経済拡大が継続し、インフレ率の底打ちがより一層鮮明になれば、USD/JPY上昇ドライバーの米金利は遅かれ早かれ上昇を開始する公算大。最近では、米実質金利上昇がUSDの追い風になっているほか、USD/JPYの重要なファクターであるリスク選好度も、欧米株の調整をよそに上海総合指数がラリーしている事実を重視すれば健在と判断できる。USD/JPYの115到達シナリオが崩れていないことを再確認。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。